

(素案)

変更点1 タイトル変更

一宮市デジタル田園都市構想総合戦略

2024(令和6)年3月

一宮市

【 目 次 】

第1章 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略の策定にあたって -----	1
1 国の動向（デジタル田園都市国家構想総合戦略策定までの経緯）	1
2 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略策定の趣旨	3
3 策定の方針	4
4 一宮市の総合戦略の地域ビジョン及び5つの基本目標	5
第2章 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略の構成 -----	6
◎ 総合戦略の体系	7
第3章 基本目標と施策 -----	8
◎ 基本目標1「若い世代の希望をかなえ、充実した子育て環境と子どもが 健やかに学べるまち」をつくる	8
◎ 基本目標2「都会の利便性と田舎ののどかさが織りなす、暮らしたく なるまち」をつくる.....	13
◎ 基本目標3「一宮らしさをアピールし、ひとが集まる魅力あるまち」を つくる	18
◎ 基本目標4「企業誘致や既存産業の活性化により新たなしごとを創り、 働く力を育むまち」をつくる	22
◎ 基本目標5「安心して快適に暮らせるまち」をつくる	26
第4章 推進・検証体制 -----	30
1 本市の推進体制	30
2 進捗管理・検証体制	30
参考資料 -----	●
○ 人口ビジョン（抜粋）	●
○ 一宮市デジタル田園都市構想推進会議	●
○ 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略推進本部	●
○ 策定までの経緯	●

現在、作成中

第1章 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略の策定にあたって

変更点2 国の動向を変更

1 国の動向（デジタル田園都市国家構想総合戦略策定までの経緯）

2008（平成20）年に始まった人口減少が、今後、加速度的に進み、地方だけでなく、国の経済社会に対して大きな重荷になるとの認識から、人口減少の克服・地方創生に向け、国を挙げて取り組むこととされ、2014（平成26）年12月27日に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び施策の基本的方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がそれぞれ閣議決定されました。そして、2019（令和元）年12月20日に、地方創生の目指すべき将来や、今後5か年の施策の方向性等を取りまとめた「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。

しかし、人口減少・少子高齢化が進行するとともに、東京圏への一極集中の是正には歯止めが掛からず、さらに新型コロナウイルス感染症の拡大により、地方経済への打撃や地域コミュニティの弱体化など、地方の経済・社会は大きな影響を受けました。一方で、感染症の影響により、デジタル技術を活用したオンライン会議やテレワークなどが普及し、新たな働き方などが可能となりました。

そうした中で、国はデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化させるために、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、新たな5か年の総合戦略である「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。

変更点3 国の総合戦略の考え方を記載

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略

【総合戦略の基本的な考え方】

- テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
- デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化させる。
- これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要である。

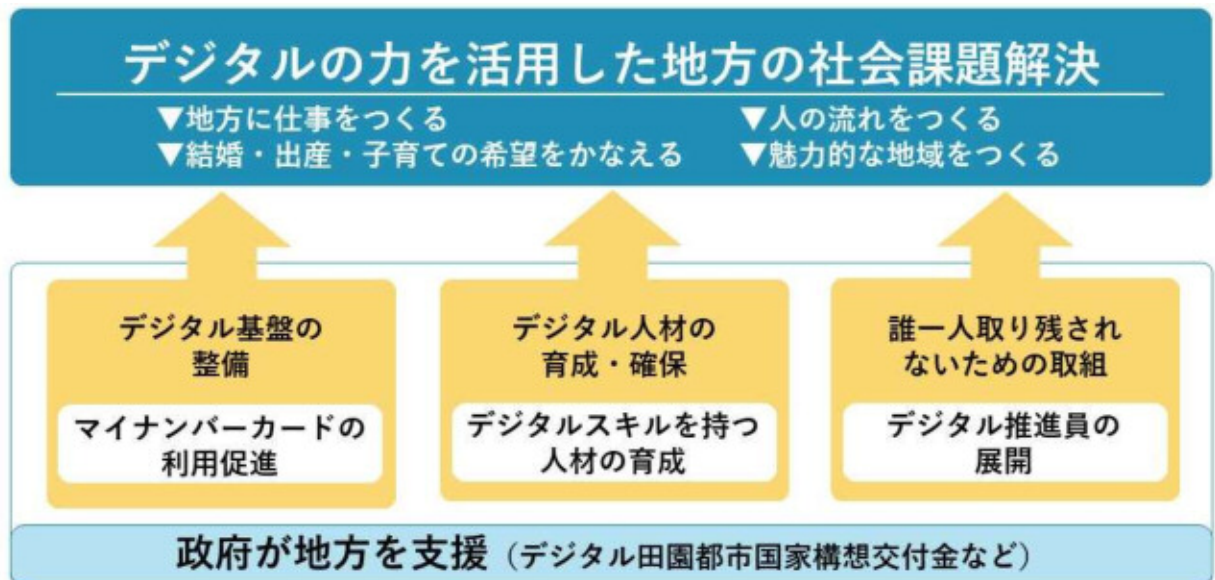
※「デジタル田園都市国家構想総合戦略」概要版より、一部抜粋。

変更点4 国の総合戦略における施策の方向性を変更

<国の総合戦略における施策の方向性>

国は、「デジタル基盤の整備」、「デジタル人材の育成・確保」、「誰一人取り残されないための取組」などの取組を通じて、地方のデジタル実装を下支えする。

地方公共団体はデジタルの力を活用して地方の社会課題を解決するために、「地方に仕事をつくる」、「人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「魅力的な地域をつくる」という4つの取組を推進する。



変更点5 策定の趣旨を変更

2 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略策定の趣旨

本市は、2020（令和2）年3月に「第2期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この戦略は、2060年までを計画期間とする人口の将来展望である「人口ビジョン」と、その達成に向けて取り組む施策をまとめた「第2期総合戦略」の2部構成となっていました。

国の総合戦略改訂に伴い、第2期総合戦略における地方創生の取組を継続するとともに、デジタルの力を活用して加速化・深化させるために、今後4年間で取り組むべき計画である「一宮市デジタル田園都市構想総合戦略」を策定します。

一宮市デジタル田園都市構想総合戦略は、『人口ビジョン』の下に4年間の基本目標や施策を『総合戦略』に掲げて実行するという第2期の枠組みを維持して策定を行い、地方創生の充実・強化に取り組んでいきます。

◎第1期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略

①人口ビジョン 【期間：2060年まで】

②第1期総合戦略【期間：2015（平成27）年度から
2019（令和元）年度まで】



2部構成のうち、②総合戦略の部分を新たに策定

◎第2期一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略

①人口ビジョン 推計値と乖離がないため改定せず

②第2期総合戦略
【期間：2020（令和2）年度から
2023（令和5）年度まで】



2部構成のうち、②総合戦略の部分を新たに策定

◎一宮市デジタル田園都市構想総合戦略

①人口ビジョン 政府の長期ビジョン改定に合わせ、2025（令和7）年度に改定予定

②総合戦略（今回策定する部分）
【期間：2024（令和6）年度から
2027（令和9）年度まで】

変更点6 策定の方針を変更

3 策定の方針

- (1) 現行の人口ビジョンは継続するものの、政府の長期ビジョン改定に合わせ 2025（令和7）年度に改定予定です。改定後は、総合戦略についても人口ビジョンに関連する箇所を部分的に改訂します。
- (2) 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略及び愛知県の地方版総合戦略を勘案した計画とします。
- (3) 第2期総合戦略に引き続き、市民をはじめ、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディアの関係者と連携しながら策定を進めます。
- (4) 第2期総合戦略の枠組みを維持しつつ、施策・具体的な事業・KPI 等について、必要な見直しを行うこととします。

4 一宮市の総合戦略の地域ビジョン及び5つの基本目標

第2期総合戦略では、サブタイトル、5つの基本目標及びそれぞれの基本目標を象徴するキーワードを定めました。一宮市デジタル田園都市構想総合戦略においては、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略と同じ枠組みを継承しつつ、一宮市が抱える社会課題の解決を図るために、一宮市が目指すべき理想像（地域ビジョン）を定め、それに向けて施策を充実・強化していきます。

■ 地域ビジョン

「トカイナカ」で子育てにやさしく安心して暮らせるまち

『トカイナカ』とは、「都会の便利さ」と「田舎ののどかさ」を併せ持つまちを表す造語です。本市は、大都市である名古屋の近くにあつて、交通機関の利便性も高く、生活に便利でありながら、郊外には豊かな自然を感じることができる、子育て世代にとって暮らしやすい環境が揃っているまちです。

この「トカイナカで住みやすいまち」、具体的には、木曾川が育む自然と名古屋から10分の利便性という本市の特長を十分に活かし、暮らしの場として選ばれ続けるまちづくりを行っていきます。

■ 5つの基本目標とキーワード

基本目標1 「希望」	「若い世代の希望をかなえ、 充実した子育て環境と子どもが健やかに学べるまち」をつくる
基本目標2 「調和」	「都会の利便性と田舎ののどかさが織りなす、 暮らしたくなるまち」をつくる
基本目標3 「魅力」	「一宮らしさをアピールし、 ひとが集まる魅力あるまち」をつくる
基本目標4 「活力」	「企業誘致や既存産業の活性化により新たなしごとを創り、 働く力を育むまち」をつくる
基本目標5 「安心」	「安心して快適に暮らせるまち」をつくる

第2章 一宮市デジタル田園都市構想総合戦略の構成

●人口ビジョン：一宮市の人口の将来展望

2060年に339,503人の人口を維持 ⇒ (参考資料 p.〇〇)

●総合戦略

- ・人口ビジョンで描いた本市の人口の将来展望の実現を目指し、第2期総合戦略の成果、課題も踏まえ、諸施策を展開します。
- ・総合戦略には、各基本目標にその達成に向けた基本的方向を提示するとともに、計画期間内に取り組む具体的な施策を盛り込みます。

◎総合戦略の構成

基本目標の下に基本的方向、施策を定めるとともに、達成状況を確認するための指標を、次のとおり設定します。

●階層

○基本目標

国・県の取組を勘案して、本市が設定した5つの目標

○基本的方向

基本目標ごとに目標を達成するための施策の方向性を設定

○施策

基本的方向に沿った具体的な取組を設定

●指標

数値目標

基本目標の進み具合を検証するための指標

※行政活動の結果（アウトプット）でなく、その結果もたらされた成果（アウトカム）の指標を設定

重要業績評価指標（KPI*）

項目の進捗状況を検証するための指標

*Key Performance Indicatorの略称。
原則、当該項目のアウトカムに係る指標を設定しますが、アウトプットに係る指標によるものもあります。

数値目標及び重要業績評価指標（KPI）は、原則、基準値は「2022（令和4）年度の実績値」、目標値は「2027（令和9）年度の数値」とします。ただし、新型コロナウイルスの影響を受けていない「2019（令和元）年度の実績値」を参考値として記載しています。

総合戦略では、SDGsの目標も意識しながら各施策を推進するため、SDGsとの関連が理解しやすいよう、各基本目標の末尾に関連するSDGsのゴールを示しています。

(例)



変更点8
KPIの基準値を
R4年度に変更。
R元年度を参考
値に設定

● 総合戦略の体系

基本目標 1 希望

「若い世代の希望をかなえ、
充実した子育て環境と子どもが健やかに学べるまち」をつくる

- ①結婚、妊娠・出産、子育てに対する支援
- ②安心して子どもを預けられる環境の整備
- ③経済的支援による子育て世代の負担軽減
- ④仕事と家庭の両立への支援
- ⑤特色ある教育の実施

基本目標 2 調和

「都会の利便性と田舎ののどかさが織りなす、暮らしたくなるまち」をつくる

- ①戦略的な情報発信と移住・定住促進
- ②自然と親しめる木曾川沿川の整備
- ③誰もが健康に暮らせるまちづくり
- ④にぎわいを創出する中心市街地の活性化

基本目標 3 魅力

「一宮らしさをアピールし、ひとが集まる魅力あるまち」をつくる

- ①魅力ある集客イベントの開催
- ②市の魅力・知名度の向上
- ③歴史・文化・スポーツを活用した集客

基本目標 4 活力

「企業誘致や既存産業の活性化により新たなしごとを創り、
働く力を育むまち」をつくる

- ①多様な手段による企業誘致の推進
- ②尾州テキスタイル産業の育成・ブランド化
- ③既存産業の育成・支援

基本目標 5 安心

「安心して快適に暮らせるまち」をつくる

- ①行政と地域・民間が協働した安全・安心なまちづくりの推進
- ②デジタルとグリーンで快適なまちづくりの推進
- ③暮らしを支える地域公共交通の検討

変更点9
項目名変更

第3章 基本目標と施策

基本目標 1 「希望」

「若い世代の希望をかなえ、充実した子育て環境と子どもが健やかに学べるまち」をつくる

■ 数値目標

指 標	参考値	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.39 2019 (R1) 年	1.23 2022 (R4) 年	〇〇 2027 (R9) 年
4 か月児健康診査の受診者のうち「相談する人」がいる人の割合	98.6% 2019 (R1) 年度	97.1% 2022 (R4) 年度	〇〇 2027 (R9) 年度

■ 基本的方向

- 出会いから結婚・妊娠・出産・子育てまでの支援や、子育て世代の経済的負担軽減により、個々人の希望に応じて、子どもを産み育てられる環境を創出する。
- 安心して子どもを預けられる環境整備や、仕事と家庭の両立への支援を行い、働きながら子育てしやすいまちを創出する。
- 一宮市独自の創意工夫をした教育内容により、次世代を担う子どもが健やかに育ち学べる環境を創出する。

■ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 結婚、妊娠・出産、子育てに対する支援

- 本市の課題を明確化した少子化対策に横断的に取り組むとともに、若い世代が結婚の希望をかなえられるよう、異性との出会いや交流のきっかけづくりを行います。
- 安心して妊娠・出産できる環境を整備するため、不妊治療に対する助成を行うことで経済的・精神的負担を軽減するとともに、不妊・不育症に関する相談などの支援の充実を図ります。
- 妊娠・出産から子育て期までの様々な不安に対し、保健師や保育士等の専門の職員が幅広く相談に応じ、妊娠期からの切れ目のない支援に取り組めます。
- 子どもや子育てに関する情報を集約して、スマートフォンアプリ等で発信するとともに、アプリの電子母子手帳機能を活用して、予防接種や離乳食の開始時期等の母子保健に関する情報を提供するなど、ニーズの多様化に応じた情報提供を行います。

主な事業

青年文化教室での出会い支援
 不妊・不育症に関する支援
 母子健康包括支援センター事業
 産後ケア事業
 産後ヘルプ事業
 子育て支援サイト・アプリ・電子母子手帳運用事業

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
母子健康手帳・母と子のしおり 交付時の面接率	97.1% 2019(R1)年度	96.7% 2022(R4)年度	〇〇% 2027(R9)年度
子育て支援アプリのダウン ロード数	5,917件 2019(R1)年度末	9,364件 2022(R4)年度末	〇〇件 2027(R9)年度末

② 安心して子どもを預けられる環境の整備

- 子育て世代が安心して仕事と子育ての両立ができるよう、放課後児童クラブや放課後子ども教室の定員確保に取り組みます。
- 地域バランスを考慮した乳児保育の定員確保や休日保育の充実を進め、共働きの増加や就労形態の多様化による保育ニーズの増大に対応します。
- 子どもの病気時に仕事を休めない場合の保育の拡充や、医療的ケア児^{*}の保育の開始など、保育の不安を解消するための様々な施策を行い、保護者が安心して就労できる環境づくりを推進します。

* 医療的ケア児：日常的に経管栄養やインスリン注射などの医療的行為を必要とする子どものこと

主な事業

放課後児童クラブ・放課後子ども教室の総合的推進
 延長保育事業
 休日保育事業
 病児・病後児保育事業
 医療的ケア児保育事業
 ファミリー・サポート・センター事業
 子ども一時預かり事業
 民間活力活用による保育園施設整備事業【新】

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
放課後児童クラブの待機児童数	90 人 2020 (R2) 年 5 月	0 人 2023 (R5) 年 5 月	〇〇 人 2028 (R10) 年 5 月
放課後子ども教室の定員数	1,780 人 2019 (R1) 年度末	1,980 人 2022 (R4) 年度末	〇〇 人 2027 (R9) 年度末
保育所等の待機児童数	0 人 2020 (R2) 年 4 月	0 人 2023 (R5) 年 4 月	〇〇 人 2028 (R10) 年 4 月

③ 経済的支援による子育て世代の負担軽減

- 子育て世代の経済的な負担を軽減するため、子どもの医療費（保険診療分）における自己負担分の全額助成や、高等学校等の教育に係る助成を行います。
- 多子世帯を対象に、幼児教育・保育無償化の対象とはならない幼児の副食費の軽減や乳児の保育料の軽減等を行います。

主な事業

子ども医療費助成事業
 高等学校等就学助成事業
 多子世帯の保育料等の軽減

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
子ども医療費（保険診療分）の自己負担	無料 2019(R1)年度	無料 2022(R4)年度	〇〇〇 2027(R9)年度

④ 仕事と家庭の両立への支援

- 仕事と家庭の両立ができる働きやすい職場環境づくりや、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を支援します。
- 女性の活躍促進や、男女がともに働きやすく、子育てしやすい環境づくりを進めるため、男女共同参画を推進します。

主な事業

仕事と家庭の両立等に取り組む企業への支援
 男女共同参画推進事業

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
育児休業取得率	男性：8.6% 女性：91.4% 2020(R2)年度	男性：33.3% 女性：87.5% 2023(R5)年度	男性：〇〇% 女性：〇〇% 2028(R10)年度
ファミリー・フレンドリー企業登録企業数	101社 2020(R2)年5月	104社 2023(R5)年5月	〇〇社 2027(R9)年5月

⑤ 特色ある教育の実施

- 一宮市独自の教育を展開するとともに、各学校が主体的に特色ある学校づくりに取り組み、学校が楽しいと感じながら学べる環境づくりを進めます。
- 市内の全小中学校に設置した学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を通じて、子どもの地域参加や地域の人材による学校支援を推進するなど、家庭、地域、学校が協働し、地域全体で子どもを育成します。
- 地域の歴史・民俗の学習など、子どもたちが学校とは異なる場で学び、地域の特長に触れる機会を設け、地元への愛着を育む環境をつくります。

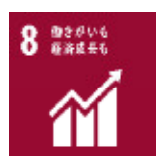
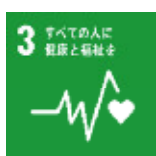
変更点10
記載を一部変更
(タブレットPCの導入を削除)

主な事業

魅力あふれる学校づくり推進事業
ミュージアムキッズクラブ事業
公共施設を活用した学習室の設置

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
「学校が楽しい」と感じている児童・生徒の割合	小学生：65.9% 中学生：57.7% 2019(R1)年 12月	小学生：67.8% 中学生：57.0% 2022(R4)年 12月	小学生：〇〇% 中学生：〇〇% 2027(R9)年 12月

基本目標 1 に関連するゴール



基本目標 2 「調和」

「都会の利便性と田舎ののどかさが織りなす、
暮らしたくなるまち」をつくる

■ 数値目標

指 標	参考値	基準値	目標値
社会増減 (直近5年間累計)	+2,380人 2015(H27)～ 2019(R1)年	+952人 2018(H30)～ 2022(R4)年	+〇〇人維持 2023(R5)～ 2027(R9)年
一宮市に住み続けたいと 思う人の割合	79.8% 2020(R2)年5月	79.7% 2023(R5)年5月	〇〇% 2028(R10)年5月

■ 基本的方向

- 名古屋から10分の利便性と、木曽川の自然環境という田舎ののどかさを併せもつ「トカイナカ」の魅力を活かし、移住・定住したくなるまちを創出する。
- 効率的で質の高い医療提供体制を構築するとともに、市民の健康に対する関心と意欲を高め、誰もが健康に暮らすことのできる環境を創出する。
- 中心市街地の活性化により、にぎわいのある魅力あるまちを創出する。

■ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 戦略的な情報発信と移住・定住促進

- 子育て世代の移住・定住を促進するため、本市の「暮らしやすさ」、「子育てしやすさ」などの魅力を効果的に情報発信します。
- 東京一極集中の是正に向けた国の施策に呼应し、就業等で東京圏から移住する人の経済的な負担を軽減することで、本市への UIJ ターンを促進します。

主な事業

デュークス (DEWKs)* に向けた情報発信事業
移住促進支援事業

*DEWKs：子どものいる共働き夫婦のこと（Double Employed With Kids の略）

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
転入者数	12,637 人 2019 (R1) 年	12,346 人 2022 (R4) 年	〇〇人 2027 (R9) 年
25～49 歳の人口の社会増減 （直近 5 年間累計）	+477 人 2015 (H27)～ 2019 (R1) 年	+369 人 2018 (H30)～ 2022 (R4) 年	+〇〇人 2023 (R5)～ 2027 (R9) 年

② 自然と親しめる木曾川沿川の整備

- 約 18km にも及ぶ木曾川の豊かな自然を活かすため、国と連携して自転車道・遊歩道のネットワークの整備を行います。
- 民間活力の導入も視野に入れながら、富田山公園を始めとした木曾川河川敷の拠点となる施設を整備し、子育て世代を中心とした様々な人が集う、新たなにぎわいの場を創造します。
- 木曾川に生息する天然記念物であるイタセンパラの保護・啓発、川と人の暮らしとの関わりを考える学習機会などを通じ、木曾川沿川の自然に親しむ環境づくりを行います。

主な事業

木曾川沿川遊歩道・自転車道整備事業

木曾川河川敷公園拠点整備事業

木曾川イタセンパラ保護啓発事業

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
遊歩道・自転車道の整備総延長	12.8km 2019(R1)年度末	12.8km 2022(R4)年度末	〇〇km 2027(R8)年度末

③ 誰もが健康に暮らせるまちづくり

- 医療機関の間の適時適切な情報共有により、質の高い医療提供体制を構築するとともに、医療に関する相談体制を築き、医療安全に関する助言及び情報提供等を行います。
- 市民が自ら無理なく健康的な生活を選択できるよう、健康づくりの意識づけを行います。
- 心身ともに健康で活力ある生活ができるよう、遊歩道や公園など身近なところで気軽に運動ができる環境づくりを行います。
- 高齢者が気軽に交流できる場所や運動ができる機会をつくることで介護の未然の防止を図り、高齢期においても健康に暮らせるよう支援します。

主な事業

地域医療連携ネットワークの運用
 医療安全支援センター事業
 生活習慣病予防事業
 地区スポーツ事業
 緑道整備事業
 おでかけ広場の拡大
 貯筋教室の開催
 健康づくり支援【新】

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
健康維持に取り組んでいる人の割合	60.2% 2020(R2)年5月	65.4% 2023(R5)年5月	〇〇% 2029(R10)年5月
国民健康保険の特定保健指導の該当率	11.3% 2018(H30)年度	11.1% 2021(R3)年度	〇〇% 2025(R7)年度
週1回以上スポーツを実施している人の割合	55.4% 2020(R2)年5月	56.4% 2023(R5)年5月	〇〇% 2029(R10)年5月

変更点11 KPIの一部変更（「貯筋教室の参加者数」を削除）

④ にぎわいを創出する中心市街地の活性化

- 効率的な土地利用により、一宮駅周辺への商業施設等の立地促進や居住誘導を進めます。
- 歩行者を中心とした、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを進め、中心市街地に新たなにぎわいを創出します。
- 商工団体等が行う催事等の経費の一部を補助し、官民一体となってにぎわいを創出します。

主な事業

一宮駅周辺の土地の高度利用によるにぎわいの創出
 まちなかウォークアブル推進事業
 商工団体等事業補助

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
建築規制緩和の適用による 建築件数 (累計)	0 件 2019 (R1) 年度末	0 件 2022 (R4) 年度末	〇件 2027 (R9) 年度末
一宮駅周辺地区*の居住人口	17,789 人 2020 (R2) 年 4 月	17,700 人 2023 (R5) 年 4 月	〇〇人 2028 (R10) 年 4 月

*一宮駅周辺地区

一宮市立地適正化計画における都市機能誘導区域の一宮駅周辺地区の範囲

基本目標 2 に関連するゴール



基本目標 3 「魅力」

「一宮らしさをアピールし、
ひとが集まる魅力あるまち」をつくる

■ 数値目標

指 標	参考値	基準値	目標値
観光スポット・イベントの 来客者数	487 万人 2019 (R1) 年度	411 万人 2022 (R4) 年度	〇〇万人 2027 (R9) 年度
JR・名鉄の一宮駅の乗降人員 (定期利用者除く・3年間累計)	3,041 万人 2016 (H28)～ 2018 (H30) 年度	2,259 万人 2019 (R1)～ 2021 (R3) 年度	〇〇万人 2024 (R6)～ 2026 (R8) 年度

■ 基本的方向

- 観光イベントに磨きをかけ、訪れたいまちを創出する。
- モーニングサービスをはじめとした一宮市独自の文化や特産物等を情報発信することにより、人を惹きつけるまちを創出する。
- 継続的な一宮市のファンになってもらえるような工夫を凝らし、関係人口をより獲得できるまちを創出する。
- 歴史、文化などの地域資源を最大限に活かすとともに、注目の集まるスポーツイベントを誘致・開催するなど、魅力のあふれるまちを創出する。

■ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 魅力ある集客イベントの開催

- 本市を代表する伝統的な観光を時代に即してブラッシュアップし、新たな魅力を創出し、交流人口の拡大を目指します。
- 木曾川沿川の自然を活かした各種イベントやミズベリング138*により、自然環境の豊かさなど、本市の魅力を広くアピールします。

*ミズベリング138：木曾川の水辺において、市民・企業・行政等の多様な主体が一体となり、水辺のもつ魅力を活かしたにぎわいを創出する活動のこと

主な事業

趣向を凝らした七夕まつりの開催
 冬の七夕カーニバル・一宮イルミネーションの開催
 国営木曾三川公園三派川地区センターイベントの開催
 いちのみやリバーサイドフェスティバル等の開催
 ミズベリング138事業
 BISHU FES. 事業【新】

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
七夕まつり来客者数	100.2万人 2019(R1)年7月	71.0万人 2022(R4)年7月	〇〇人 2027(R9)年7月
138タワーパークイベント 入園者数	82.7万人 2019(R1)年度	71.2万人 2022(R4)年度	〇〇人 2027(R9)年度

② 市の魅力・知名度の向上

- ウェブサイトや SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等の様々なメディアを通じて市の魅力を積極的に発信し、市の魅力・知名度の向上につなげます。
- 市内の名所・史跡、喫茶文化など市独自の魅力を観光ツールとして展開します。
- フィルム・コミッション活動による映画やドラマ等のロケ地誘致、撮影支援を行い、国内のみならず海外にも本市の魅力を発信します。
- 市の農産物や特産品等を推奨することや寄附者へ記念品として贈呈することで、市の魅力を多方面に広めます。

主な事業

観光情報の発信

観光協会運営事業

一宮モーニングプロジェクト

フィルム・コミッション活動

一宮市観光協会推奨品の承認

いちのみや応援寄附に対する魅力ある特産品の提供

広報紙発行事業及びウェブサイト関連事業【新】

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
市政に関するメディア掲載回数	466 回 2019(R1)年度	462 回 2022(R4)年度	〇〇回 2027(R9)年度
観光協会ウェブサイトアクセス 件数	59.8 万件 2019(R1)年度	199.0 万件 2022(R4)年度	〇〇件 2027(R9)年度
いちのみや応援寄附金の寄附件数	839 件 2019(R1)年度	2,310 件 2022(R4)年度	〇〇件 2027(R9)年度

③ 歴史・文化・スポーツを活用した集客

- 博物館・歴史民俗資料館・美術館において、常設展、特別展や企画展を開催するとともに、本市の歴史・文化や郷土の偉人等にスポットを当てて地域資源として磨きをかけ、交流人口の拡大を図ります。
- 魅力あるスポーツ大会の開催の機会を捉えて、本市の魅力を全国に発信するとともに、全国及び世界的スポーツイベントに関連する事業の誘致等により、競技関係者、大会観戦者などの誘客の獲得につなげます。

主な事業

博物館・資料館・美術館展示事業
 市川房枝生家跡地の活用
 文化財活用環境づくり事業
 美濃路みちおこしプロジェクト
 旧林家住宅保存活用事業
 世界的スポーツイベントに関連する事業の誘致
 いちのみやタワーパークマラソンの開催
 広域スポーツ大会の誘致

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
博物館・資料館・美術館の1日あたりの入館者数	274人 2019(R1)年度	245人 2022(R4)年度	〇〇人 2027(R9)年度
主要スポーツイベント参加者数	7,975人 2019(R1)年度	2,702人 2022(R4)年度	〇〇人 2027(R9)年度

基本目標3に関連するゴール



基本目標 4 「活力」

「企業誘致や既存産業の活性化により
新たなしごとを創り、働く力を育むまち」をつくる

■ 数値目標

指 標	参考値	基準値	目標値
法人数	8,923 事務所 2019 (R1) 年度	9,425 事務所 2022 (R4) 年度	〇〇事務所 2027 (R9) 年度
納税義務者数（個人市民税の所得割）	176,433 人 2019 (R1) 年度	179,346 人 2022 (R4) 年度	〇〇人 2027 (R9) 年度

■ 基本的方向

- 企業誘致を推進し、多様な産業のあるまちを創出する。
- 尾州テキスタイル産業をはじめとする市内産業の活性化を図るため、将来の担い手の人材の発掘・育成を行うとともに、付加価値を高め、稼げる産業を創出する。
- 地域経済を支える中小企業の持続的な発展と新たに創業する事業所への支援を行うとともに、農業分野では、6次産業化、地産地消、地域ブランド化を推進するなど、既存産業の育成・支援を行い、安定した雇用を創出する。

■ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 多様な手段による企業誘致の推進

- 次世代を担う付加価値の高い産業や、雇用を生み出す企業を誘致するため、奨励措置を行うなど、企業が立地しやすい環境の整備に努めます。
- 商工会議所・商工会や金融機関と連携し、起業・創業の支援を行います。

主な事業

企業立地促進奨励推進事業
 創業支援事業
 中小企業振興融資等補助事業

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
雇用促進奨励金の交付対象者数（直近5年間累計）	245人 2015(H27)～ 2019(R1)年度	261人 2018(H30)～ 2022(R4)年度	〇〇人 2023(R5)～ 2027(R9)年度
創業相談件数 （5年間の平均値）	198件 2015(H27)～ 2019(R1)年度	172件 2018(H30)～ 2022(R4)年度	〇〇件 2023(R5)～ 2027(R9)年度

※年度ごとの数値の増減が大きいため、この指標の基準値は2018(H30)～2022(R4)年度の平均値としています。

② 尾州テキスタイル産業の育成・ブランド化

- 地場産業であるテキスタイル産業の活性化を図るため、次世代を担う人材の発掘と育成を行い、尾州産地の技術の伝承と後継者の確保を推進します。
- 海外有名デザイナーや大手アパレル等とタイアップし、「品質に優れた生地」という尾州テキスタイルの優位性を国内外に広く発信します。

主な事業

尾州の匠 ものづくりリレー事業

ジャパン・テキスタイル・コンテスト開催事業

海外販路開拓支援事業

尾州春夏物展示会開催負担事業

F D C 人材育成事業

F D C 尾州モノづくり・プロモーション支援事業

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
企業への貼付用「尾州マーク」 販売・承認枚数	450,878 枚 2019(R1)年度	482,738 枚 2022(R4)年度	〇〇枚 2027(R9)年度
有名アパレルブランドと市内 企業の契約件数	3 件 2019(R1)年度	0 件 2022(R4)年度	〇〇件 2027(R9)年度
テキスタイル産業における人 材育成事業の受講者数	798 人 2019(R1)年度	1,637 人 2022(R4)年度	〇〇人 2027(R9)年度

③ 既存産業の育成・支援

- 国内外への展示会など事業所の活発な活動を支援し、地域産業の活性化を図ります。
- 商工会議所が運営する中小企業相談所や商工会での、事業承継等の各種経営相談の受付など、中小企業の持続的発展に向けた支援を行います。
- 事業所の人手不足の解消と働きたい人の希望を叶えるため、若者・高齢者・女性はもとより障害者・生活困窮者など多くの市民が多様な働き方を選択できる就職支援を、ハローワークやNPO等と連携して行います。
- いちのみや野菜プロジェクトなどにより地産地消を一層推進するとともに、地場産農産物・農産加工品のブランド化や6次産業化の支援による販売促進、ICT化等による作業の効率化を進め、魅力と持続的発展性のある農業を目指します。

主な事業

貿易振興事業等補助事業
 特許及び実用新案出願支援事業
 中小企業相談所補助事業
 商工会運営費補助事業
 就職支援事業
 6次産業化・地産地消推進事業

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
中小企業相談所への相談件数	5,166 件 2019(R1)年度	3,831 件 2022(R4)年度	〇〇件 2027(R9)年度
就職フェア参加者数	292 人 2019(R1)年度	465 人 2022(R4)年度	〇〇人 2027(R9)年度

基本目標 4 に関連するゴール



基本目標 5

「安心」

「安心して快適に暮らせるまち」をつくる

■ 数値目標

指 標	参考値	基準値	目標値
災害に強いまちづくりができていると思う人の割合	21.1% 2020 (R2) 年 5 月	18% 2023 (R5) 年 5 月	〇〇% 2028 (R10) 年 5 月
交通事故による死傷者数	1,895 人 2019 (R1) 年	1,485 人 2022 (R4) 年	毎年 前年より減少

■ 基本的方向

- 行政と地域・民間が協働し、防災・防犯体制の構築や、交通安全対策の充実・強化を進め、安全で安心な暮らしができるまちを創出する。
- デジタル技術を積極的に取り入れることにより市民サービスを向上させるとともに、市内における脱炭素化の取組や緑化を促進することで、緑豊かで快適に暮せるまちを創出する。
- 公共交通の環境整備とともに、多様な主体との連携や新たなモビリティサービスの調査・研究を行い、生活に必要な施設にアクセスしやすいまちを創出する。

変更点12
デジタルや
グリーンに
関する記載
に変更

■ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

① 行政と地域・民間が協働した安全・安心なまちづくりの推進

- 大規模災害に備え、国土強靱化に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、防災・災害対策の強化に取り組みます。
- 災害時に必要な物資を適切に備蓄するとともに、避難所の機能を向上させます。
- 災害発生時の被害の拡大を防止するため、災害情報共有システムや SNS、ケーブルテレビ・コミュニティ FM 等を活用し、迅速な情報発信や情報収集を行います。
- 地域が設置する防犯カメラに対して補助を行うなど、行政と地域が一体となった防犯対策に取り組みます。
- 地域・一宮警察署及び各種団体等と連携して交通安全の啓発を行うとともに、歩道の拡幅やカーブミラー・道路照明灯等の交通安全施設の設置など、歩行者が安全に通行できる交通環境の整備を進めます。
- 交通ビッグデータの活用により危険箇所を特定してハンプ*を設置するなど、より効果的な交通安全対策に、地域と連携して取り組みます。

*ハンプ：車両の速度を抑制するための人工的な舗装の段差のこと

主な事業

国土強靱化地域計画推進事業
 避難所機能向上事業
 防災情報伝達事業
 高齢者宅を訪問しての防犯・交通安全の個別啓発
 自主防犯活動支援事業
 防犯カメラ設置・維持補助事業
 防犯灯設置・維持補助事業
 交通安全運動推進事業
 歩道拡幅事業
 交通安全施設整備事業
 交通ビッグデータを活用した生活道路交通安全対策事業

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
あんしん・防災ねっと登録件数及び一宮市防災ツイッターフォロワー数	15,407 件 2019 (R1) 年度末	17,111 件 2022 (R4) 年度末	〇〇件 2027 (R9) 年度末
災害時協定の締結数	132 件 2020 (R2) 年 4 月	169 件 2023 (R5) 年 4 月	〇〇件 2028 (R10) 年 4 月
犯罪発生件数（刑法犯）	2,310 件 2019 (R1) 年	1,744 件 2022 (R4) 年	毎年 前年より減少
交通安全の啓発活動回数	36 回 2019 (R1) 年度	35 回 2022 (R4) 年度	〇〇回 2027 (R9) 年度

②デジタルとグリーンで快適なまちづくりの推進

- デジタル技術を積極的に取り入れて様々な分野で「デジタルトランスフォーメーション (DX) *」を推進することにより、市民サービスを向上させるとともに快適に暮らせるまちを実現します。
- 官民協働による課題の解決を進めるため、市が保有するデータをオープンデータとして積極的に公開するとともに、利活用を促進します。
- 市民のライフスタイルやニーズに応じて納税や公金支払いの利便性を向上させるため、キャッシュレス決済や国のマイナポータル*による公金決済を導入し、公金の納付方法を多様化させます。
- 地域新電力会社から再生可能エネルギー由来の電力を公共施設へ供給すること等により、脱炭素化を促進するとともに、建築行為を行う場合の敷地内における緑化を促進することにより、緑豊かなまちを実現します。

*マイナポータル：行政手続きがワンストップででき、行政からのお知らせが自動的に届くなどのオンラインサービスのこと

*デジタルトランスフォーメーション (DX)：デジタル技術を用いた変革により、ビジネスや行政サービスなど人々の生活を発展させること。

主な事業

地域 DX の推進【新】

スマート自治体への取組

民間で利活用できるオープンデータの公開

公金納付方法の多様化対応

地域新電力事業への支援【新】

一宮市緑地の保全及び緑化の推進事業【新】

重要業績評価指標 (KPI)	参考値	基準値	目標値
オープンデータのカタログ サイト登録数	136 件 2019 (R1) 年度末	879 件 2022 (R4) 年度末	〇〇件 2027 (R9) 年度末
行政手続きの オンライン化率	〇〇% 〇〇 (R〇) 年度	〇〇% 〇〇 (R〇) 年度	〇〇% 〇〇 (R〇) 年度
緑化条例の適用による緑地 面積 (累計)	〇〇㎡ 〇〇 (R〇) 年度	〇〇㎡ 〇〇 (R〇) 年度	〇〇㎡ 〇〇 (R〇) 年度

変更点13
デジタルや
グリーンに
関する記載
に変更

変更点14
デジタルや
グリーンに
関するKPI
を追加

③ 暮らしを支える地域公共交通の検討

- 車に乗らない人も暮らしやすいまちを目指し、地域と交通事業者、市が連携・協働して公共交通ネットワークの充実を図ります。
- 福祉施策との柔軟な連携、市民・NPO等によるボランティア輸送や、ICTを活用したシェアリングエコノミー*、自動運転技術など、公共交通を補完・充実させる移動手段を検討します。

*シェアリングエコノミー：物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用する社会的な仕組みのこと

主な事業

i-バスの運行

i-バスミニの運行

既存の枠組みにとらわれない、新しい移動手段の導入の検討

重要業績評価指標（KPI）	参考値	基準値	目標値
名鉄バス・i-バス・i-バスミニの年間利用者数	489.5万人 2019(R1)年度	414.9万人 2022(R4)年度	〇〇万人 2027(R9)年度
市内の公共交通網が充実していると思う人の割合	40.3% 2020(R2)年5月	36.9% 2023(R5)年5月	〇〇% 2028(R10)年5月

基本目標5に関連するゴール



第4章 推進・検証体制

変更点15 推進本部・推進会議の名称変更

1 本市の推進体制

市長を本部長とする「一宮市デジタル田園都市構想推進本部」により、各部署が緊密に連携して全庁的に取り組み、総合戦略の各施策・事業を効果的に推進します。

また、市民をはじめ、産業界、行政、教育機関、金融機関、労働団体、メディアほか有識者で構成する「一宮市デジタル田園都市構想推進会議」より、幅広い助言や意見を聴取します。

2 進捗管理・検証体制

数値目標と KPI により、毎年、総合戦略で取り組む具体的な施策の検証を行うこととします。

また、その設定数値等を基に「一宮市デジタル田園都市構想推進本部」及び「一宮市デジタル田園都市構想推進会議」において、各施策の効果を検証するとともに、必要に応じて指標の追加や目標値の修正等の見直しを行います。

総合戦略の策定、実行から検証、見直しまでの一連の PDCA サイクルの確立により、目標達成に向けた継続的な取組を推進します。

変更点16 「政策5原則」の記載を削除